

小学校特別支援学級における音楽活動を取り入れた「自立活動」の展開

和歌山大学教育学部 菅 道子(研究代表)、上野 智子
和歌山市立楠見東小学校 木下 由香利、辻 あゆみ、
竹内 由里子、鈴木 美紀

【研究の趣旨】

本取り組みは、音楽活動を取り入れた「自立活動」の実践を通して、特別支援学級における授業づくりの可能性や支援の在り方について、大学教員と公立小学校教員の連携によって実践・検証しようとするものである。

学級に在籍している児童は、人との関わり方や情緒の安定等に様々な困難をもっている。そんな中で、音楽を通して気持ちを安定させ、人と心を通わせる体験をさせたいと願い、「なかよし音楽」の時間を設定した。さらに、授業後は協議会をもち、成果と課題を具体化しながら授業構成を検討していった。本授業においては、安定・安心できるコンディションで、よりよいコミュニケーションが築ける児童の育成を目指し取り組んでいきたいと考える。

【研究の経過】

2020(令和2)年度の1学期はコロナ対策のため、一同に集まることを懸念してなかなか行えなかった。2学期、運動会の練習や校内の研究授業(在籍児童を全職員で理解するための授業)後の10月下旬からの開始となった。

2020(令和2)年

第1回目 10月29日(木)取り組みをスタートさせるにあたっての検討。

第2回目 11月12日(木)1回目の授業についての検討。

第3回目 12月15日(火)2回目の授業についての検討。

第4回目 12月28日(火)3回目の授業記録の分析と今後についての検討。

2021(令和3)年

第5回目 1月19日(火)4回目の授業参観&検討。

第6回目 2月5日(金)報告書についての検討。

【取り組み】

1. 児童について・・・13名

なかよし1組(知的障害学級6年3名)

なかよし2組(知的障害学級5年1名、4年2名、3年1名、1年2名)

なかよし3組(自閉症・情緒障害学級6年1名、5年1名、3年1名)

なかよし4組(肢体不自由学級4年1名)

2. 目標

- ・音楽活動を通して、人と心を通わせる楽しさを体験する。
- ・ルールを守って活動することで、自分も他者も気持ちよく過ごせることに気づき、積極的になおかつ安定した気持ちで取り組む心地よさに気づくことができる。

3. 支援

- ・音楽活動に参加できるよう、気持ちがそれそうになった時には声かけをする。
- ・体を動かす活動を取り入れ、やる気を引き出す。
- ・ルールが守れた時にはほめ言葉をかけ、意欲を持続させる。
- ・リズム打ちや楽器演奏等で承認の場を設けて自信を育てる。

4. 授業について

はじめに、「これからやる『なかよし音楽』は、歌や合奏が上手になるための音楽じゃなくて、みんなで心を合わせて、楽しい時間を過ごす音楽だよ。」と児童へ投げかけた。(1)1時間の流れ

- ① あいさつ……一人ずつあいさつしよう。
- ② なぞなぞソング…耳をすませよう。
- ③ リズムリレー…みんなでつなげよう。
- ④ プレイソング…体を動かそう。
- ⑤ うた……心をあわせよう。
- ⑥ あいさつ……気持ちを落ち着けよう。



(2) 第3回目 12月14日(月)の授業概要分析

活動	めあて	児童の様子	省察
① あいさつ 《こんにちは》	・気持ちのいい朝のあいさつをしよう。	転がったままの児童や素直に声を出さない児童もいたが、順序良く一人ずつ「おはよう」のあいさつができた。	
②なぞなぞ 《おたずねソング》	・耳をすませて聴いて考えよう。	みんなの輪の中で寝転がったりしていた児童も答えを考え参加していた。	・転がっていた児童も音楽に合わせて動いていたようだった。
③リズムリレー ・すきなおやつリレー ・まねっこリズム	・一人ずつ好きなものを言って、みんなでリズムをつなごう。 ・聴いたリズムをまねして打とう。	自分の好きなおやつを決めかねている児童がいた。 席についていなかった児童も自分の番になると席にもどり、大きな声で答えた。 どの子もリズムよく打っていた。なかには常に大きな音を鳴らそうとする児童がいた。	・子どもたちの後で先生たちに尋ねたが、見本として子どもの前にすればよかった。 ・初めて強弱を意識させたが、もっとはっきりと違いを出すようにしたい。
④プレイソング 《アブラハムの子》 《しあわせなら手をたたこう》	・リズムにのって体を動かそう。	まん中の広いスペースで、体を自由に動かし、楽しそうに体を動かしていた。	・次回は「右手」「右手」と反復するところを子どもたちにも歌ってもらいたい。 ・手・足・肩・ほっぺ・泣く・笑うなど掲示物を作っておけばよかつ

			た。そうしたらもっと歌声も出たと思われる。
⑤ 歌 《あわてんぼうのサンタクロース》 《赤鼻のトナカイ》	・みんなと声を合わせて歌おう。 ・クリスマス会で歌う曲を練習しよう。	自分の教室に歌集を取りに行く児童もいて、それを見ながら大きな声で歌っていた。 歌詞にあった振りや動きをつけて、楽しく踊りながら歌えた。	
⑥ あいさつ 《きょうは終わり》	・心を落ち着けてあいさつしよう。	クラスごとに「きょうなら」とあいさつし、次時へつなぐことができた。	

<授業記録を視聴し検討した改善点>

- ・リズムリレーの際に返事に困る児童のために視覚的なカードを用意する。
 - ・児童が好むポップスを使ってストレッチをして体を大きく動かす活動を取り入れる。
 - ・大きい動きから微細な動きを要求する活動へと流れをつくる。
 - ・音を聴いて立ったり座ったりする活動を取り入れる。
 - ・打楽器で小刻みに音を鳴らして雰囲気盛り上げていく。
 - ・ステージのような場所を作り一人でリズムを演奏する等して承認の場を準備する。
- 以上のことを、今後取り入れていく方向で検討を行った。

(3) 第4回目 1月19日(火)の授業概要分析

	めあて	児童の様子	省察&改善提案
① あいさつ 《こんにちは》	・気持ちよく朝のあいさつをしよう。	授業前からご機嫌ななめで参加できない児童もいたが、ほとんどの児童が気持ちよくあいさつすることができた。	・最後に、隣の教室にいる児童の名前を呼び、誘ってみた。聞こえていたと思う。
② なぞなぞ 《おたずねソング》 (2問)	・耳をすませてよく聴こう。	「むずかしい」「わからん」と言いながらも真剣に考え、答えにたどりつき喜んでいる姿が見られた。	・「6つのお菓子のお話→むかし話」は難しいようだった。くり返し歌い、ヒントを出すことで答えを導くことができた。

<p>③リズムリレー ・すきな色リレー</p> <p>・まねっこリズム</p>	<p>・一人ずつ好きな色を言って、みんなでリズムをつなごう。 準備・・・ 色紙・磁石</p> <p>・聴いたリズムや強弱をまねして打とう。</p>	<p>手拍子しながら、友達の声に耳をすませようとしていた。</p> <p>いつも言えない(好きなものを決められない)児童が先生に続いてリズムにのって言うことができた。</p> <p>みんなでやったあと、5人ずつ打ち、5人の友達に見てもらった。強弱を意識し、打つことができていた。</p>	<p>・黒板へ色紙の視覚支援がありよかった。</p> <p>・先生方がお手本になってくれたので、1年生も真似をすることができた。</p> <p>・テンポがだんだん速くなっていくので、打楽器を使ってテンポをコントロールしていくとよい。</p> <p>・名前を呼ぶときの手拍子は強く、友達の声聴くときには弱くできたらいい。また「○○さん」「あーか●」の後に、「○○さんの好きな色はあーか●」とみんなの声を挟んでいくのもいいという案が出た。</p> <p>・交代してお互いの演奏を聴きあい、承認の場となった。</p>
<p>④プレイソング 《アブラハムの子》</p>	<p>・リズムにのって体を動かそう。</p>	<p>前時ほどノリはよくなかったが、楽しめていた。</p>	<p>・この活動をしたことで、次の「耳を澄ます」活動に入っていた。</p>
<p>⑤ 歌 《ドレミのうた》 トーンチャイムで演奏しよう。</p>	<p>・トーンチャイムの音色に耳を澄ませよう。 ①音が消えたら顔をあげよう。 ②音を鳴らしてみよう。 ③自分の出番を意識しよう。</p>	<p>下を向いて音が消えるまで耳を澄ませていた。</p> <p>隣の教室にいた児童もトーンチャイムの音が聞こえたからか、一緒に活動を始め、分担当では、自分の音の時に鳴らそうとしていた。</p> <p>一年生の手を持って教えながら一緒に演奏しようとしている児童もいた。</p>	<p>・新しい楽器のケースを開けたときも、はじめて音を聴いた時も、和を乱す児童はいなかった。驚くほど、落ち着いていた。</p> <p>・楽器の音色が心を穏やかにしたのか、集中できていた。ドー—レー—と歌いながら演奏した後、ドミミ・ミソソ…にもチャレンジしてみた。予想していたよりも合図を見ながらうまく演奏できた。2人で息を合わせて鳴らそうとしている子どももいた。</p> <p>・自分の音を鳴らすときに一步前に踏み込む等の動きも入れるとさらにいい。(自分の出番をさらに意識</p>

			できる。またみんなからの承認の場ともなり得る。)
⑥ あいさつ《きようは終わり》	・心を落ち着けてあいさつしよう。	「バイバイ」のところでは手を振り、静かな気持ちで終わることができた。	・トーンチャイムの余韻を残しながら、終わった。

【成果と課題】

令和2年度からの月に1度の「なかよし音楽」(自立活動)は、特別支援学級の担任と大学教員との連携のもと数回の協議会を持ちながら進めていった。初年度の成果は次の通りである。

第1には、1年生～6年生まで13名の児童が、本授業を楽しみにしていて、毎回和やかな雰囲気を取り組んでいる。主に6年生の男子が「なぞなぞソングがおもしろい」と言ってくれるように、素直で場の雰囲気を和らげてくれていることが、この活動に良い影響を与えている。

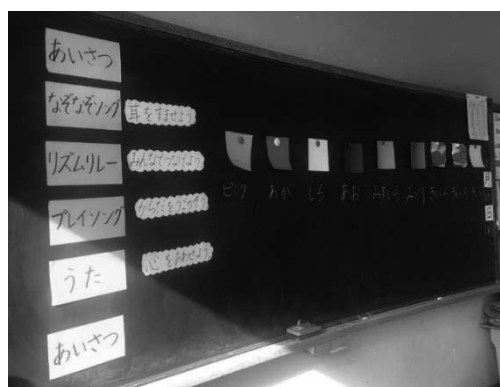
1月の授業では、さらにトーンチャイムを用いたことで、その音色に耳を澄ませる活動ができたことは、子どもたちにとって貴重な体験となり得た。

第2には、特に気になっていた児童も「なかよし音楽」の活動を体験することでの変化が見られることである。45分間参加することがまだ難しい児童も、その場において身体を動かしたり、友だちと合わせてリズムを打ったり、トーンチャイムを鳴らしたりと、他者との関係の中で自らも参加してみようという姿が見られるようになってきている。また、情緒的に不安定な児童も、「なかよし音楽」の活動中・活動後には穏やかに過ごせる時が増えている。音楽を通して、担任と心を通わせられた場面もあり、大変喜ばしく感じられた。

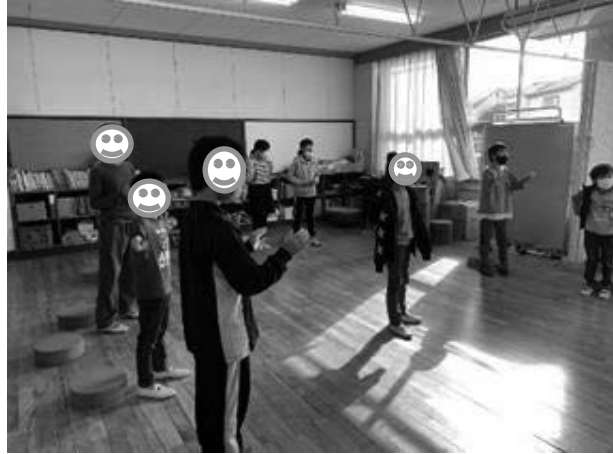
第3には、担任相互の協力体制が充実していることがあげられる(授業参観した大学教員からも指摘)。本学校には特別支援学級が4学級あり、担任もそれぞれに合計4人いる。そこで、中心になって進める教員とそれをサポートする3人の教員のチームワークが大切になってくる。掲示物を黒板に貼っていく役割、「まねっこリズム」の際に太鼓を差し出す役割、歌を歌う時に歌詞を言う役割、言葉や動きに困っている児童にそっと寄り添い声をかける役割等々、あうんの呼吸でそれぞれが動いている。これらは、日ごろからの関わりの中で積み上げてきたものであり、自然と分担ができていた。今後は、さらに事前の打ち合わせをしっかりと行い、よりよい支援ができるようにしていきたい。

次年度に向けての課題としては次の2点があげられる。

第1に、特に気になる児童への引き続きの指導・支援である。気持ちが高ぶっているときに、音楽がクールダウンの一助となり得ることを願うとともに、担任教師との信頼関係を基盤にしながら、「なかよし音楽」の活動を継続していくことで児童の成長を見守っていきたい。



第2に、次年度は、普段の45分間の学習の中にも、リズムを用いて身体機能を高める運動や、気持ちをリセットさせる活動を取り入れたい。そして、これまで以上に音楽をふんだんに活用し、「聴く」力や他者とよりよいコミュニケーションができる能力を育んでいく活動を新たな課題として取り組みたい。



<参考文献>

- ・《こんにちは》《きょうは終わり》ノードフ＝ロビンズ・センター編(2002)『音楽療法のためのピアノ小品集』ヤマハミュージックメディア
- ・《おたずねソング》生野里花・二俣泉(2001)『静かな森の大きな木』春秋社
- ・《しあわせなら手をたたこう》《アブラハムの子》《ドレミのうた》教育芸術社編(2015)『歌はともだち5回改訂版』教育芸術社